

予算額

11,732,430 円

トップアスリートによる巡回指導

巡回指導先団体総数	18 団体			
巡回指導先団体内訳	総合型クラブ	スポーツ少年団	学校	その他
	2 団体	3 団体	12 団体	1 団体

トップアスリート総数	14 名			
トップアスリートの内訳 (大会出場別)	オリンピック	国際大会	全国大会	その他
	1 名	2 名	11 名	名

アシスタントコーチ総数	15 名
-------------	------

指導種目	バレーボール、ソフトボール、野球、卓球、カヌー
------	-------------------------

◆効果をもとめるための工夫や取組など

- ・ 当事業の派遣先評価は大変講評であり来年度も派遣継続の希望がある。しかし大会等での具体的な競技力向上の成果となると、同じ団体に最低でも2～3年のスタンスで派遣する取組が重要である。
- ・ そのための取組ポイントは、派遣先の監督や顧問の意識改革や資質向上が大切である。トップアスリートの巡回指導が永遠に継続する訳ではないので、対象生徒や参加者のやる気以上に派遣先の監督や顧問の指導方針の確立や指導スキルの習得が重要と考える。
- ・ 派遣先の監督や顧問は派遣指導者に丸投げするのではなく、この機会にしっかり「トータルな指導方法」を実体験し習得することが、効果をもとめる今後の取組方法であろう。

◆成果と課題

〔成果〕

- ・ 今回の派遣先の評価は大変講評であるが、大会等での具体的な競技成果となると今後も同じ団体への継続派遣が重要である。
- ・ 派遣先により多少のばらつきはあるが、派遣先の監督や顧問の意識改革や資質向上に貢献できた。これを機会に派遣指導者に丸投げするのではなく、派遣先監督や顧問の「総合的な指導力」のさらなる習得を期待する。
- ・ これまでの既存指導者(監督や顧問)と違い、トップアスリートの巡回指導により派遣先の部員や受講生の刺激となりやる気の高揚となった。

〔課題〕

- ・ 種目が「個人種目か団体種目か」、対象が「単位団体か募集集合体か」、「絶対人数の多少」などにより必要な指導者数が異なる。また、指導方法も団体種目は個人種目と比べポジションなどで指導内容や対応が違ってくるので、H24年度は臨機応変の対応が必要である。
- ・ 現役のトップアスリートの定期派遣は現実的ではなく、手配可能な指導者は元トップアスリートである。雇用確保の意味でも将来を見据えた派遣先と一体となった「指導方針や指導カリキュラム」の策定が大切となる。

取組の名称	スポーツ好き子どもの育成				
趣旨・目的	<p>少子高齢化の時代、地域の子ども達は地域全体の共有財産として、暖かい目で時には厳しく支援導くことが大切である。</p> <p>その活動方針は「スポーツ好き子どもの育成」で、種目を特定しない幅広いスポーツ活動により心身とも健全な子どもの育成を目指す。</p>				
内容	<p>①種目を特定しないオープン教室の開催</p> <p>②環境保全やボランティア活動によるひとづくりや農作業による食育の推進</p> <p>③成長期のスポーツ障害に対応するスポーツ検診の実施</p>				
対象者	<p>①オープン教室/未就学児童/小学生1～3年生</p> <p>②食育の推進/3才以上の児童～小学生とその父兄</p> <p>③スポーツ検診/小、中学生、高校生</p>	参加人数/回	<p>①347名</p> <p>② 55名</p> <p>③370名</p>	実施回数	<p>①44回</p> <p>② 3回</p> <p>③ 1回</p>
効果を高めるための工夫や取組など	<ul style="list-style-type: none"> ・地域スポーツの普及発展のためには、特に未就学児童や小学生低学年を対象とした底辺活動が重要である。その取組は「種目を特定しないオープン教室」の開催で、スポーツ好きの子どもを育成し、については地域の競技力向上に取り組むものである。 ・この効果を高める補完活動として、農作業体験による食育の推進やスポーツ障害予防のスポーツ検診などの活動で、これらを総合展開する取組が大切である。 				
1 成果	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ好きの子ども育成には種目を特定しないオープン教室の定期開催が重要で、将来的には地域の競技力向上に寄与するものである。 また、農作業体験や障害予防のスポーツ検診などの総合展開で、下記のような取組成果があった。 ・①種目を特定しないオープン教室は、「キッズ運動遊び」と「ジュニアスポーツ天国」として複数プログラムを定期開催することで積極的な参加者を確保できた。 ・②からだづくりと食育の推進は、収穫祭の開催でさとうきびの収穫とその加工体験などを通じ、食べ物大切さを考える効果があった。 ・③スポーツ障害を予防する活動は、野球のスポーツ少年団員を対象とした専門トクターの「スポーツ検診」を開催することで、障害に対する意識が向上した。 				
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・掛川市周辺の未就学児童と小学生低学年の子供達を対象に、「スポーツ好きの子ども育成」という地域課題の解決に向けた取組を上記のように実施した。 ・当事業は種目を特定しない幅広いスポーツ体験プログラムを基盤に、農作業を通じた食べ物大切さなど(食育)を理解させる複合プログラムの展開である。課題は同じ参加者を対象に一定期間継続的に実施することが前提の為、参加人数が限定的であることと単年度でなく複数年の継続事業となることである。 ・しかし、スポーツ好き子どもの育成は将来の地域競技力向上に繋がり、心身とも健全な子どもの育成や元気なまちづくりが期待できるので、拠点クラブとして今後も継続したい。 				

取組の名称	健康づくりの推進				
趣旨・目的	地域の元気は地域住民の健康である。拠点クラブとしては年間を通じより手軽な運動を楽しく継続できるしくみと運動プログラムの提供が必要である。				
内容	①ニュースポーツの交流プログラムとスポーツライフを支援する生涯学習プログラムの実践 ②室内プール・スタジオを活用した健康増進プログラムの実践 ③世界糖尿病デイ対応事業「ブルーライト・ウォーキング」大会の開催				
対象者	地域住民全体	参加人数／回	①2661名 ②1886名 ③ 100名	実施回数	①115回 ②258回 ③ 1回
効果を高めるための工夫や取組など	<ul style="list-style-type: none"> 「地域住民が活動的であればその地域は元気」だといいますが、この元気の源は地域住民の「健康」である。そのための工夫としては、地域住民が掛川の同じ仲間として共に楽しく汗を流す事ができる身近なプログラムの提供とそのプログラムを定期開催する取組が地域の健康づくりに効果が期待できる。 				
2 成果	<ul style="list-style-type: none"> 地域住民の元気の源は「健康」です。当健康づくり事業は、下記のように楽しく運動できる身近なプログラムの提供とその定期開催により、地域住民の健康づくりを支援することができた。 ①手軽なニュースポーツプログラムやスポーツライフを支援する生涯学習プログラムの定期開催により、住民の運動機会向上に寄与できた。 ②プールやスタジオを活用した健康増進プログラムの定期開催により、多世代の参加者とそのリピート率向上に寄与できた。 ③世界糖尿病デイの対応事業としてウォーキング大会を開催することで、住民の糖尿病予防に取り組む意識高揚に寄与できた。 				
課題	<ul style="list-style-type: none"> 地域住民を対象とした「健康づくりの推進」という、地域課題の解決に向けた取組を実施したことで下記の課題が認識された。 健康づくりの推進には手軽な運動を年間を通じて継続できるしくみづくりが重要で、課題は軽スポーツなどの手軽に楽しめるプログラムの検討とそれを安全に運営できる指導者の確保である。 また、公共スポーツ施設だけでなく地域の生涯学習センター(小学校区)にも、その身近な活動拠点としての機能を拡充していくことが重要な課題である。 その課題解決のためには、地域生涯学習センター連絡協議会との協働事業も含めた地域一体での取組の継続が重要であり、地域の拠点クラブとして今後も挑戦していきたい。 				

本事業全体の成果と課題

〔成果〕

- ・ 現在、掛川体協では掛川総合スポーツクラブの登録指導者230名を基盤とした「指導者バンク」構想があり、今回のスポーツコミュニティの形成促進事業に関しては大変関心を持っている。
- ・ 特にトップアスリートの派遣事業は、体協の指導者バンク構想と基本的な考え方が共通しており、当会でも掛スポを拠点クラブとした事業推進により、地域スポーツとトップスポーツの好循環を実践したい。
- ・ また、今回は県内総合型地域クラブ連絡協議会加盟の「クラブネットワーク」を活用して、トップアスリートの巡回指導派遣先を調整決定できた。
- ・ 県地域クラブ連絡協議会の加盟クラブはトップアスリートの派遣事業の現地窓口を担うことで、地域のコミュニティ拠点として「存在価値」の高揚につながった。
- ・ これまでの既存指導者（監督や顧問）と違い、トップアスリートの巡回指導により派遣先の部員や受講生の刺激となりやる気の高揚となった。
- ・ 派遣先により多少のばらつきはあるが、派遣先の監督や顧問の意識改革や資質向上に貢献できた。これを機会に派遣指導者に丸投げするのではなく、派遣先監督や顧問の総合的な指導力のさらなる習得を期待する。
- ・ 拠点クラブ「掛スポ」は、今後も地域のスポーツコミュニティ活性化を継続的に推進する。
- ・ 特に、スポーツ好きの子ども育成事業と健康づくりの推進事業は地域課題解決の2本柱であり、今年度の事業成果を基盤として、来年度も積極的に推進する。

〔課題〕

- ・ 掛スポは地域スポーツ関係団体との協働で、市内の公共スポーツ施設を活用した「地域住民のスポーツコミュニティ」を推進する活性化事業を、今後も継続的に率先して実践することが課題である。
- ・ また、地域のあらゆるスポーツ資源や観光資源を活用した「コミュニティビジネス」に取り組むことで地域貢献活動を推進する。
- ・ 県西部エリアの地域クラブ「エリアネットワークの活用」で、クラブ交流事業（会員交流や指導者交流、物販交流など）の協働開催を模索する。
- ・ あらゆる地域資源を活用したスポーツコミュニティ事業（ワークキャンプやスポーツイベント・合宿など）の協働展開を模索する。
- ・ 地域資源と地域クラブの融合による地域貢献活動の推進、他（全文削除）